2014年(平成26年)10月26日(日曜日)　2

道南ネット

七飯

姉妹都市に魅力伝えたい

海外交流研修訪問団壮行式

町役場で行われた壮行式

現地の高校や施設など訪問

【七飯】町の姉妹都市・米国マサチューセッツ州コンコードへの町海外交流研修訪問団（団長・松本享学校教育課長、団員14人）の壮行式が23日、町役場で開かれた。一行は28日から11月7日までの11日間の日程で、現地でホームステイしながら交流を深める。中宮安一町長は「コンコードと七飯町の交流をより一層深めることが、みなさんの一番の使命です。そのためにもたくさん楽しんできて」と激励した。

訪問団は七飯、大中山、大沼中学校と七飯高校の生徒計8人に引率教諭、町民代表の2人、町職員ら総勢14人。生徒たちはホームステイ先の生徒と一緒にカーライル高校へ通い、授業や部活動に参加するほか、ボストン市内を見学。町民代表は現地の商業施設の視察や、小学校を訪問する。

壮行式では生徒たちが「海外と日本の文化の違いを学んできたい」「帰国後はコンコードの良さを伝えたい」などと抱負を発表。田中駿平君（七飯中2年）は「不安はたくさんあるが、たくさんコミュニケーションをとって七飯町の魅力を伝えたい」と力強く語った。

団長の松本学校教育課長は「現地の子どもや学校の様子を学んできたい。また、七飯町のPRも行いたいと思う」と述べた。

（野口賢清）

北海道新聞夕刊　平成２７年２月１３日（金）

七飯

米国研修 体験を報告

本年度の七飯町海外交流研修事後報告会が2日、町文化センターで行われ、昨秋に姉妹都市の米マサチューセッツ州コンコード町に派遣された中高生らが現地での体験を報告した。

コンコードに派遣されたのは中高生8人と大人5人の計13人。報告会ではまず七飯高生3人が、ホームステイ先の家族や学校の様子、見学した施設などを写真を使って説明した。

この後、参加者たちは「ホームステイで困ったこと」「日米の高校の違い」など9項目の質問に答える形で、それぞれが言葉や生活習慣、食文化の違いなどについて感じたことを発言。また中高生らの家族に向けて「研修後変わったことは」との問いが投げかけられると「朝一人で起きるようになった」「積極的に行動するようになった」と子供の成長への驚きを語った。

（七飯・白石久美子）

写真を使って海外研修での出来事を報告する七飯高生

函館新聞　平成２７年２月６日（金）

昨年、姉妹都市コンコード町へ研修訪問

七飯の中高生が異文化交流報告

貴重な経験 今後の糧に

【七飯】町と姉妹都市提携を結んでいる米国マサチューセッツ州コンコード町へ派遣された海外交流研修訪問団（団長・松本亨学校教育課長、団員14人）の報告会が２日、町文化センターで開かれた。（野口賢清）

経験や思い出を共有した事後報告会

町内の中・高校生や町民代表、町職員らによる団員のほか、保護者や学校関係者らが参加した。訪問は昨年10～11月に行われた。はじめに北村到総務部長が「皆さんの報告を楽しみにしている。派遣で得た貴重な経験を今後に生かしてほしい」とあいさつした。

報告は七飯高校の生徒3人からスタート。自分たちで撮影した写真を使い、ホームステイ先の家族との思い出などを発表。「海外でのハロウィーンはとても楽しかった」などと話しながら、現地で得た知識や経験、文化の違いなどを報告。「ホストファミリーとの別れの時は、悲しくて涙が止まらなかった」と振り返った。

質疑応答コーナーで「おいしかった食べ物は」の質問に、ハンバーガーやパンケーキ、アイスクリームなどが中学生の人気を集めていた。また、「ホームステイ先で一番困ったことは」との問いに「シャワーするタイミングが分からなかった」と回答すると、笑いが起こっていた。

研修を通じて定めた今後の目標について「もっと英語力をつけたい」「海外で英語を使った仕事がしたい」などと新たな夢をつがんだ様子だった。

訪問団を代表して松本課長は「中学、高校生の皆さんは、これからもたくさんのことを経験することと思います。今回の訪問で受けた刺激を生かして、いろいろなことに挑戦してほしい」と述べた。